

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900342
法人名	特定非営利活動法人 咲風会
事業所名	グループホーム 空
所在地	徳島県三好市池田町白地ウマバ456-1 (電話) 0883-74-1010

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 11日

【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 14 人
職員数	10 人 常勤4人, 非常勤6人, 常勤換算 1F 3人, 2F 4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部平屋 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月25日現在)

利用者人数	10 名	男性 2 名	女性 8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・北條病院
---------	-------

徳島県 グループホーム空 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は眺めの良い山腹の中間点に位置している。日当たりがよく、庭には手作りのベンチやイスが配置され、くつろぎやすい工夫がされている。また、花や野菜が植えられ、木陰作りの傘も配置されるなどの心遣いが見られる。利用者も穏やかな明るい表情で思い思いに過ごされていた。家族や地域住民の出入りは毎日あり、近所の方もスタッフのようにホームに溶け込んで手伝いをしている。祭りや行事にも積極的に参加し、ホームは地域の中心的な存在にある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 身体拘束のやむを得ない場合の同意書の書式の整備、事故発生時の経緯及び対応策等の報告書については改善され作成している。注意の必要な物品の管理方法の明文化及び利用者と職員と一緒に食事をとることが改善できていない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義を理解し取り組んでいるが、全員で話し合ったり課題の改善についての具体的な取り組みが行われていない。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は設置されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 健康状態や暮らしぶりは毎月の請求書と一緒に送付している。家族には気づいたことを何でも言ってもらえるよう伝え、要望等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域の中心に位置し、家族や地域住民の出入りは毎日あり、談笑したり手伝いをしたりといったことが自然な情景となっている。また、野菜等はほとんど買うことがないほど旬のものが届けられている。近所に万が一のことがあった場合には管理者や職員が駆け付けたり、行事や祭り、運動会に参加したりと双方向のつながりと連携ができています。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のなかで生きる充実感を味わえるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、実践に向けて地域の方々と一体になって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは地域の中心に位置し、家族や地域住民の出入りは毎日あり、談笑したり手伝いをしたりといったことが自然な情景となっている。また、野菜等はほとんど買うことがないほど旬のものが届けられている。近所に方が一のことがあった場合には管理者や職員が駆け付けたり、行事や祭り、運動会に参加したりと双方向のつながりと連携ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し取り組んでいるが、全員で話し合ったり前回評価での課題の改善についての具体的な取り組みが行われていない。	○	訪問調査の時点で改善されていない項目があるため、全員で話し合う等、課題の改善についての具体的な取り組みを行うことが望まれる。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は設置されていない。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に行われたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村等各部署には管理者が随時情報を発信し、地域包括支援センターと月1～2回、相互訪問し、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態や暮らしぶりは毎月、文書にて送付している。また、家族の来訪時や状況の変化時等は随時連絡や報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には気づいたことを何でも言ってもらえるよう伝え、要望等を言いやすい雰囲気づくりに努めている。また、重要事項説明書に内外の苦情相談窓口を明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職した場合は、ダメージを与えないよう説明する等の配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月刊誌により常に新しい情報を取り入れ、それらを基に話しあいケアの向上に活かしている。職員は受けた研修を積極的に見つけてきて自主的に参加するなど前向きな姿勢が見られる。必要に応じホームからの助成もある。また、研修の内容や新しい情報、職員のアイデア等は昼食時や、夕方のミーティングで話し合わせ職員全員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域包括支援センターで3ヶ月に1回ケアマネジャーの会議に出席し、同業者等との情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や他の利用者との交流、家族と一緒に泊まるなど、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	部屋の掃除や布団干しを助けあったり、野菜の植え時や生活の知恵などを教えてもらったりと一人ひとりの生活歴や特技を活かし共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情等から意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な方には家族から情報を得るほか、日頃の観察によって本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との日頃の関わりの中かで把握した思いや意見を反映し、具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直されている。また、状態変化があれば、利用者、家族等必要な関係者と話し合い現状に即した計画を立てられるよう柔軟に対応していることが一人の方の記録から確認できた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院、外出、帰宅の支援を行っている。また、山間部の農家の出身者が多く、隣の畑で身体機能の維持と習慣の継続のため耕作もしている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と常に連絡をとり、いつでも適切な医療が受けられる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については本人や家族、又、かかりつけ医と話し合い、全員で方針を共有している。また、看護師を常駐し、いつでも対応できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護、秘密保持については契約書・重要事項説明書に明記している。職員はプライバシーの確保を常に確認し、利用者の視点にたち、さりげなく、プライバシーを傷つけない支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入り口や縁側等どこからでも戸外に出ることができ、ラジオがこちよく流れる中、天気の良い日は庭で日向ぼっこをしたり、側で草むしりしたり、グループや1人で庭や近所に散歩に出かけたり、それぞれが思い思いに過ごしている。また、自分で行動が決められない方にはみんなの顔や声の聞こえる所に車イスを置く等の配慮が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は近所から持ち込まれた旬の食材を見て皆で相談して決め、季節感あふれる食事は庭に運ばれ楽しく食べていた。職員は食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。しかし利用者と職員と一緒に食事はされていない。	○	職員と利用者は同じ物を一緒に食べる事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望と生活習慣に合わせ夏は毎日シャワーと入浴を、冬は週2～3回入浴できるよう支援している。拒む人には声かけや足浴、清拭等の工夫がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	フトン干し、洗濯物干し、草取り、畑仕事等一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。洗濯物たたみは全員で、自分のものは自分でと、後でやり直さなければいけない人も含め役割づくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	集団や個人で出かける近所への散歩は毎日の日課となっている。隣地の畑の角に畳を敷き畑仕事をする人、眺める人も一緒にお茶を飲む他、祭りや運動会等、積極的に戸外にでかけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアや縁側どこからでも自由に戸外に出られるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ドアや縁側どこからでも戸外に出られるようになっており、マニュアルを作成し、年1回の避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時やおやつ時、夜間など水分量には十分配慮し、必要量摂取できるよう支援している。食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。しかし、専門家によるアドバイスと栄養摂取状態の把握ができていない。	○	栄養摂取量の把握と定期的な管理栄養士等の専門的なアドバイスが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋どこからでも見える所に机、イスが配置され、2階の畳の居間にはコタツもあり、安心して過ごせる雰囲気の中利用者居心地よく過ごしている。心地よくラジオが流れ、台所のごはんの支度の音やにおいがする。陽あたりとすばらしい見晴らしの良い庭には、手作りの机やベンチが置かれ車いすの方も含め、近所や家族の人と談笑したり草むしりをしたり散歩等、思い思いに過ごせる工夫がたくさん見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながらテレビ、掛け時計、つりさげ電灯、3段ボックス等使い慣れたものが持ち込まれ、一般家庭と変わらない安心して過ごせるような工夫をしている。		